

令和4年7月5日

岐阜県立大垣工業高等学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度 岐阜県立大垣工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月29日(水) 13:30~16:10
- 3 開催場所 協議会会場 大垣工業高等学校 本館1階 会議室  
授業参観 北舎、本館、南舎2階、機械科棟、電子機械科棟の教室及び実習室
- 4 参加者 会長 小塚 生開 共立紡機株式会社 代表取締役  
副会長 萩永 秀樹 育友会会長  
委員 長瀬 ちえ子 大垣夢ある女性の会 事務部長  
多賀 英昭 太平洋工業株式会社 品質保証部  
片桐 実智 地域代表  
大石 玉穂 (財)岐阜県立大垣工業高等学校同窓会事務局  
宮下 友紀子 育友会3年学年代表  
浅野 康博 イビデン株式会社執行役員 経営企画本部人事部長  
(欠席)  
  
学校側 桐山 明宏 校長  
土田 公成 副校長  
樋口 高広 教頭  
田邊 勝敏 教頭

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和4年度学校運営協議会 会長、副会長の互選について
- (2) 令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について(全日制・定時制)
- (3) 令和4年度学校運営機構について(全日制・定時制)

意見1:学校の組織は複雑なので簡単には理解できない。

⇒ 民間企業の場合は直属の上司は1名が基本だが、教員の場合は複数の業務に並行して従事するため、直属の上司が業務ごとに異なる特殊な組織の構成となることを説明し、理解を得た。

意見2：全日制の部活動の活動時間について制限などはあるのか。

⇒平日のうち1日と、週休日のうちいずれか1日を休みとするのが原則となっている。  
この原則は公式戦等がない期間の指針であり、公式戦等の直前については活動日を  
増やすこともある。しかし、年間での活動時間については、原則の休養日数が担保  
できるように計画を立てている。

#### (4) 学校の現状と課題について (全日制・定時制)

＜外国にゆかりを持つ生徒の日本語サポートについて (定時制の現状から)＞

意見1：定時制の該当生徒は、普段、登校前にはどのような生活をしているか。

⇒多くがアルバイトをしている。普段の会話はできるが、漢字やその意味が伝わりに  
くい状況である。

意見2：外国語のサポートを行う支援員の活用制度がないのか。

⇒1名の支援員に来てもらっている。週3日の要望を出しているが、その支援員は5  
校を掛け持ちしている状況のようで、本校へは週1日の支援状況である。

意見3：支援員の必要人数は何人なのか。

⇒3名の生徒が支援を必要としている。県内に任用されている支援員の人数が少ない  
ことと、県下で支援の重点地区が需要の多い中濃地区となっている背景があり、充  
足する見通しは低いと思われる。

意見4：県全体の支援員数がそもそも不足しているのではないかと。増やすべきではないかと。

⇒委員の意見を県に伝えて、増員および支援回数の増加を求める。

意見5：高校在学中に日本語も学びたいという生徒がいるのであれば、教育の機会を与えるの  
が県のあるべき姿なのではないかと。

⇒他の意見とともに学校の要望を県に伝える。

＜入試における志願者数増加のためにどのような方策が考えられるか＞

意見1：中学校への説明会はどのような形式や内容で行われているのか。

⇒基本はプレゼンテーション形式で、教務主任あるいは学科主任が説明をしている。  
中学校によって高校に対する派遣依頼の詳細が異なるので、一律に同様の説明方法  
ではない。説明時間を長く得られる場合には工作体験を含む方法や、その中学校を  
卒業した本校の生徒を引率して中学校の先生に成長を感じてもらう取組も行ってい  
る。

意見2：中学生に工業高校らしいことを体験する機会を提供することや、本校でどんなことが  
できるようになるのかといった内容を伝えることが必要ではないかと。学校における一  
日の流れなどを説明されても、普通科との違いがあまり感じられない。

⇒どのような事が学べるのかを全面に出せるようにプレゼン内容を確認し修正する。

意見3：中学生にとっては、工業高校へ進学することは高校卒業後に就職を決断することに等  
しく、なかなか決めきれないものだ。今学んでいる高校生に、なぜ本校を選んだのか  
をリサーチすると重点となるポイントが見いだせるのではないかと。

意見4：卒業後どのような仕事についているのかといった、本校卒業生の実体験や率直な思い  
についての話題を提供することで、より魅力を感じてもらえるのではないかと。

意見5：中学校では昔から日ごろの考査の点数で進路のアドバイスをされることがあったかも  
しれないが、高校を消去法で選択してきた生徒にはなかなか工業の魅力は伝わらない。  
考査の点数だけではなく工業の世界の魅力を中学生にPRすることで、目標を持った  
積極的な生徒が本校に目を向けてくれるのではないかと。

意見6：消去法で高校を選択して入学した場合、その後も自分のやりたいことが見いだせない

ことがあり、大人になっても職を転々とする事態を招いている。このことから積極的に学ぶ意欲をもった受検者を増やす必要がある。

意見7：点数のみで評価されるだけでなく、やる気も評価できる仕組みができるとありがたい。

意見8：中学生の挑戦したい気持ちについて、中学校の教員に後押ししてもらえるとよい。

意見9：中学校への広報は、何年生を対象としているのか。3年生だけでなく2年生や1年生に対して、早めに工業の魅力を伝えるとよい。

⇒春の説明会は3年生に対して話をすることが多いが、秋以降のものは2年生を対象とするケースが多い。

意見10：工業高校の就職率の高さ、資格の取得ができる点、優良企業への就職実績、希望があれば進学も可能であることなど、中学生とその保護者に伝えていけるとよい。

意見11：推計レベルでよいので、大卒と高卒との生涯賃金の差や、生活の豊かさの差などを説明に含めると、親としては大変興味を持てるのではないかと。

意見12：昔は夢を持って進路を決めたが、今は全体的に裕福となった背景もあり、あまり夢を抱かずに進路を決めている状況にあるのではないかと。

意見13：工業高校に進学することで地元企業に就職しやすくなることや、高校生活とその後の生活が豊かになることなど、メリットをぜひ伝えてほしい。

意見14：工業高校出身者はその他の科の出身者と比較すると、入社時の取り組む姿勢が格段によい。企業では過酷な現場も中にはあるが、工業高校出身者はそれに耐えられる力をもった人材に育っている。企業の求める人材とは、基本的なマナーと体力を身に付けていることである。工業高校はそのような力を育む人材育成ができていることを中学校に伝えていけるとよい。

意見15：学校パンフレットの構成は怎么样了なっているか。

⇒従来のものよりページ数を増やし、地元企業で活躍している卒業生の写真や生の声を取りあげて掲載するなど、より多くの魅力を伝えられるように変更を加え、現在編集中である。

#### <地域と連携した人材育成のあり方について>

意見1：これまで大垣市主催のイベントで本校の生徒の作品が出展されてきた経緯がある。コロナの感染拡大が落ち着いてきた場合には、大垣市主催イベント「かがやききらめきタウン」の関係者より作品の出展や協力依頼を本校にしてもよいものか。また申し込む場合の窓口はどこか。

⇒公的機関からの申し入れはぜひ受けたい。校長へ連絡をいただければ関係者に接続する。

#### (5) 第2回、第3回の学校運営協議会の日取りなどについて

### 6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会において、全委員より今年度の本校の教育指導の重点及び学校経営計画、学校運営機構について、全日制と定時制ともに承認が得られた。
- ・本校を選んだ理由を1年生にリサーチし、その結果を今後の生徒募集活動に活用する。
- ・中学生へのPR、保護者へのPR、両面を考え伝達内容を検討していく。
- ・中学校入学段階からのPR活動や、中学校の先生の進路指導に役立つ情報提供を行う。
- ・企業連携の在り方、生徒のマナー教育の2点の話題については次回の協議会に持ち越すこととする。